

石岡市立ふるさと歴史館第21回企画展

『広報いしおか』

の小さな記事 — 時の記憶 —

令和2年2月7日（金）～5月6日（水・祝）

■午前10時～午後4時30分 ■入場無料

■月曜日休館（祝日の場合は翌日） ※2月20日（木）臨時休館

■展示解説 2月22日（土）午前10時30分～

担当職員が展示内容を解説します（30分程度）。申し込み不要。
直接ふるさと歴史館にお越しください。

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社一丁目2番10号（石岡小学校敷地内）

☎0299-23-2398

石岡市立ふるさと歴史館 第21回企画展

『広報いしおか』の小さな記事

－時の記憶－

■目次

開催にあたって	1
1. 「時の記憶」とは……	2
2. 「時の記憶」略年表	3
3. 「時の記憶」のあゆみ	8
4. 『広報いしおか』の小さな記事	14

■例言

本冊子は、令和2年2月7日（金）～5月6日（水・祝）を会期として開催する、石岡市立ふるさと歴史館第21回企画展に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課（箕輪健一）が行いました。また展示の構成は、冊子『いしおか 時の記憶』石岡市教育委員会 2019年をもとにし、『広報いしおか』平成17年11月1日号（広報No.3）～平成26年2月1日号（広報No.200）に掲載された「時の記憶」シリーズ1～100を対象としています。

令和2年2月22日（土）午前10時30分から、展示解説を行います。

開催にあたって

『広報いしおか』毎月1日号の連載記事「時の記憶」をご存知でしょうか。石岡市と八郷町の合併直後、平成17年11月1日号からスタートした「時の記憶」は、市内の歴史・文化に関する様々な情報を皆様にお伝えするコーナーです。合併前にも、その前身となる連載記事「ふるさと散歩道」があり、両者を合わせるとおよそ30年の歴史があります。

「時の記憶」は、令和2年2月1日号（広報No.344）でシリーズ172を迎えています。

このほど、シリーズ1～100までの記事を収録した冊子『いしおか 時の記憶』が刊行され、これまでの連載内容を通覧することができるようになりました。

今回の展示では、本書の刊行を契機にこれら連載記事を振り返り「時の記憶」のあゆみを紹介します。この小さな記事から、改めて郷土の歴史や文化を知っていただくことができれば幸いです。

1. 「時の記憶」とは……

「時の記憶」は、毎月1日号の『広報いしおか』に掲載されています。市内の歴史・文化についての紹介や文化財の調査成果、ふるさと歴史館の企画展に関する情報などをお知らせしているコーナーです。『広報いしおか』の後半部分18ページまたは22ページに掲載されていますので、是非ご覧ください。



▲『いしおか 時の記憶』表紙写真

ふるさと歴史館企画展
広報いしおかの小さな記事—時の記憶—
期間：2月7日(土)～5月6日(日)
場所：ふるさと歴史館（総社1-2-10）
開館時間：午前10時～午後4時30分
※月曜休館（月曜祝日の場合はその翌日）

本紙にて毎月連載されている「時の記憶」も、今回でシリーズ166を迎えました。石岡市と八郷町の合併後、平成17年11月1日号の『広報いしおか』でスタートした「時の記憶」では、市内の歴史・文化に関する様々な情報をお届けしてきました。

企画展を開催します。また、こうした郷土を見つめ直すきっかけづくりとして、ふるさと歴史館にて「時の記憶」のあゆみを回顧する企画展を開催します。

時の記憶
シリーズ166

「時の記憶」の
あゆみ

図文化振興課（支所）
Tel 43-1111（内線 1323）

限られた紙数の中で情報を提供することは、簡単なことではありませんが、シリーズ200を目指し、今後も幅広い視点で記事掲載を継続していきたいと思えます。

このほど、これまでの掲載記事（シリーズ1～100）を1冊の本にまとめた『いしおか 時の記憶』が発刊されました。石岡市内の歴史や文化を知る手がかりとして、手軽な読み物となっています。

広報いしおか 2月1日号 No.344 p18

この記事です。



2. 「時の記憶」 略年表

広報No.	発行年月日	タイトル
3	H17年11月1日	丘の王墓 丸山古墳
5	H17年12月1日	湖の王墓 舟塚山古墳
7	H18年1月1日	石岡の仏教事始め 茨城廃寺跡
9	H18年2月1日	中世のタイムカプセル「経筒と石櫃」
11	H18年3月1日	親鸞聖人伝説「山伏弁円」 板敷山 / 石岡市大増
12	H18年4月1日	古代の茨城県都 常陸国衙跡の発見
14	H18年5月1日	古代の生産遺跡「瓦塚瓦窯跡」 石岡市部原
16	H18年6月1日	親鸞聖人伝説Ⅱ「爪書き阿弥陀」 石岡市高浜
18	H18年7月1日	石岡戦国絵巻「太田資正と片野城」 石岡市根小屋
20	H18年8月1日	市内最古の日本地図「大乘妙典日本廻国供養碑」 石岡市染谷
22	H18年9月1日	「土橋町の獅子頭」石岡市総社二丁目 「仲之内町の獅子頭」 石岡市府中一丁目
24	H18年10月1日	地下の正倉院「鹿の子C遺跡出土・漆紙文書」石岡市鹿の子
26	H18年11月1日	「洋画家 熊岡美彦」明治22年(1889)～昭和19年(1944)
28	H18年12月1日	神楽製糸工場跡地出土「汽車土瓶」及び「防衛食容器」
30	H19年1月1日	中世の国分寺の存在を示す「三巴文軒丸瓦」
32	H19年2月1日	京都の影響を受けた「かわらけ」(京都系土師器)
34	H19年3月1日	～石岡 鉄道物語～ 鹿島鉄道の歩み
36	H19年4月1日	～石岡 鉄道物語～ まぼろしの加波山鉄道
38	H19年5月1日	～近年の発掘調査の成果から～「片野城跡」
40	H19年6月1日	～近年の調査から～「二子塚古墳」
42	H19年7月1日	～近年の調査から～「府中藩陣屋跡」
44	H19年8月1日	～近年の調査から～代官屋敷遺跡出土「泥メンコ」と「植木鉢」
46	H19年9月1日	古墳時代の幕開けを告げる 上野遺跡出土 壺形土器
48	H19年10月1日	漆紙文書を詳しく読む① 出挙帳
50	H19年11月1日	漆紙文書を詳しく読む② 人口集計文書
52	H19年12月1日	漆紙文書を詳しく読む③ 兵士関係文書
54	H20年1月1日	漆紙文書を詳しく読む④ 計帳 - 古代の住民基本台帳 -
56	H20年2月1日	漆紙文書を詳しく読む⑤ 年号の書かれた漆紙文書
58	H20年3月1日	漆紙文書を詳しく読む⑥ 古代の人々の職業
60	H20年4月1日	漆紙文書を詳しく読む⑦ 文室真……とは誰か？
62	H20年5月1日	漆紙文書を詳しく読む⑧ 具注暦～古代のカレンダー～
64	H20年6月1日	漆紙文書を詳しく読む⑨ どこから来た文書なのか？
66	H20年7月1日	常陸風土記の丘 新規展示品 人物埴輪
68	H20年8月1日	新しく展示しました① 半田原遺跡の「ナイフ形石器」

広報No.	発行年月日	タイトル
70	H20年9月1日	新しく展示しました② 半田原遺跡の台形様石器
72	H20年10月1日	新しく展示しました③ 旧八郷町出土「蜂の巣石」
74	H20年11月1日	新しく展示しました④ 丸山古墳の「鉄槍」
76	H20年12月1日	新しく展示しました⑤ 丸山古墳の「鏡」
78	H21年1月1日	新しく展示しました⑥ ×印のついた埴輪
80	H21年2月1日	新しく展示しました⑦ 瓦谷古墳群の「鉄鏃」
82	H21年3月1日	新しく展示しました⑧ 二つの形象埴輪
84	H21年4月1日	新しく展示しました⑨ 瓦谷古墳群の「馬具」
86	H21年5月1日	新しく展示しました⑩ 丸山古墳出土「水銀朱」
88	H21年6月1日	瓦塚窯跡特集① 国分寺創建期の瓦を作っていたことが判明
90	H21年7月1日	瓦塚窯跡特集② 国分寺創建期の瓦が出土
92	H21年8月1日	瓦塚窯跡特集③ 科学の力で窯跡を探す！
94	H21年9月1日	瓦塚窯跡特集④ 粘土を焼いてみる
96	H21年10月1日	近年の調査成果から イベント広場出土の「歯磨き粉」
98	H21年11月1日	近年の調査成果から 佐久松山遺跡
100	H21年12月1日	近年の調査成果から 佐久松山遺跡Ⅱ
102	H22年1月1日	近年の調査成果から イベント広場出土の「牛乳びん」
104	H22年2月1日	近年の調査成果から 下ノ宮遺跡出土の「有角石器」
106	H22年3月1日	近年の調査成果から 常陸国分寺跡の「回廊」
108	H22年4月1日	近年の調査成果から 中津川遺跡出土の「土製円盤」と「土器片錘」
110	H22年5月1日	近年の調査成果から 物見塚古墳
112	H22年6月1日	瓦塚遺跡特集① 9世紀後半の窯跡が出土
114	H22年7月1日	瓦塚遺跡特集② 7109型式の軒丸瓦を確認
116	H22年8月1日	瓦塚遺跡特集③ 瓦製作工房の様子
118	H22年9月1日	瓦塚遺跡特集④ 製鉄炉を確認
120	H22年10月1日	古墳時代の網の錘 土玉
122	H22年11月1日	アフガニスタンの考古学者 ズィア氏・ムハマンド氏が来訪
124	H22年12月1日	逸品（一品）考古学 軒先瓦を展示
126	H23年1月1日	近年の調査成果から 下ノ宮遺跡の「須恵器」
128	H23年2月1日	「茨城」の地名発祥の地
130	H23年3月1日	バイパスの下に眠る遺跡① 林地区・宿畑遺跡
132	H23年4月1日	バイパスの下に眠る遺跡② 宿畑遺跡の墨書土器
134	H23年5月1日	国分遺跡発掘調査の成果 国分寺の伽藍を区画する溝
136	H23年6月1日	瓦塚窯跡特集 平成22年度の成果① 窯跡編
138	H23年7月1日	瓦塚窯跡特集 平成22年度の成果② 瓦編
140	H23年8月1日	瓦塚窯跡特集 平成22年度の成果③ 瓦編2
142	H23年9月1日	瓦塚窯跡特集 平成22年度の成果④ 瓦編3 瓦塚窯跡の3次元測量を視察 パキスタン・イスラム共和国 考古学者 マッラー博士来訪

広報No.	発行年月日	タイトル
144	H23年10月1日	新池台遺跡発掘調査の成果① 縄文時代前期の集落
146	H23年11月1日	新池台遺跡発掘調査の成果② 縄文時代前期のお墓
148	H23年12月1日	新池台遺跡発掘調査の成果③ 黒浜式土器
150	H24年1月1日	新池台遺跡発掘調査の成果④ 石匙
152	H24年2月1日	民具整理業務の成果① 占いの本
154	H24年3月1日	民具整理業務の成果② 万能
156	H24年4月1日	民具整理業務の成果③ 鍋と蓋
158	H24年5月1日	民具整理業務の成果④ 轆
160	H24年6月1日	民具整理業務の成果⑤ お菓子の木型
162	H24年7月1日	民具整理業務の成果⑥ 高浜町公印
164	H24年8月1日	茨城廃寺跡特集 平成23年度の調査成果① 北側の範囲が確定！
166	H24年9月1日	茨城廃寺跡特集 平成23年度の調査成果② 見えてきた茨城廃寺の実像
168	H24年10月1日	茨城廃寺跡特集 平成23年度の調査成果③ 国分寺建設後の茨城廃寺
170	H24年11月1日	茨城廃寺跡特集 最終号 平成23年度の調査成果④ 茨城廃寺跡の広さ
172	H24年12月1日	瓦塚特集 平成23年度の成果① 常陸国分寺建設以前の窯跡
174	H25年1月1日	瓦塚特集 平成23年度の成果② 軒丸瓦からみる技術の伝播
176	H25年2月1日	瓦塚特集 平成23年度の成果③ 瓦塚の終焉と税所文書
178	H25年3月1日	瓦塚特集 平成23年度の成果④ 石岡に残る、平城京の足跡 瓦塚の様子を考える～正倉院文書より～
180	H25年4月1日	府中城跡のガラス小玉の鋳型
182	H25年5月1日	東成井山ノ神遺跡出土仏像の鋳型①
184	H25年6月1日	東成井山ノ神遺跡出土中世の仏像の鋳型②
186	H25年7月1日	常陸国風土記編さん1300年特集① 常陸国風土記とは何か？
188	H25年8月1日	常陸国風土記編さん1300年特集② 執筆者は誰？
190	H25年9月1日	常陸国風土記編さん1300年特集③ 水運の利用
192	H25年10月1日	常陸国風土記編さん1300年特集④ 茨城国造と舟塚山古墳
194	H25年11月1日	常陸国風土記編さん1300年特集⑤ 茨城の地名の由来
196	H25年12月1日	常陸国風土記編さん1300年特集⑥ 常陸国風土記と鹿の子C遺跡
198	H26年1月1日	石岡市の戦争遺跡① 石岡海軍航空隊
200	H26年2月1日	石岡市の戦争遺跡② 掩体壕と空襲
202	H26年3月1日	近年の調査結果から 柿岡池下遺跡
204	H26年4月1日	近年の調査結果から 片野柳原遺跡 - 古墳時代の火災現場 -
206	H26年5月1日	近年の調査結果から 中島遺跡 - 新発見の堀跡 -
208	H26年6月1日	近年の調査結果から サカイツカ遺跡

広報No.	発行年月日	タイトル
210	H26年7月1日	近年の調査結果から 都から運ばれた土器
212	H26年8月1日	近年の調査結果から 都の土器をまねた土器
214	H26年9月1日	近年の調査結果から 東成井山ノ神遺跡の畿内産土師器
216	H26年10月1日	東府中出土の古墳時代の壺
218	H26年11月1日	近年の調査結果から 弥陀ノ台遺跡 - 戦国時代の前線基地 -
220	H26年12月1日	近年の調査結果から 宮部遺跡
222	H27年1月1日	近年の調査結果から 尼寺ヶ原遺跡
224	H27年2月1日	近年の調査成果から 杉ノ井遺跡
226	H27年3月1日	近年の調査成果から 掩体壕の測量・発掘調査
228	H27年4月1日	近年の調査成果から 町塚遺跡
230	H27年5月1日	発掘された瓦会街道 部原五本松遺跡
232	H27年6月1日	近年の調査成果から 東成井東原遺跡 - 小学生発掘体験のその後
234	H27年7月1日	近年の調査成果から 佐久上ノ内遺跡 - 古墳時代の豪族居館
236	H27年8月1日	近年の調査成果から 佐久上ノ内遺跡Ⅱ - 古墳時代の豪族居館
238	H27年9月1日	常陸國總社宮隨身像 - 250年ぶりの修理
240	H27年10月1日	茨城廃寺跡 調査成果① 東側の範囲を確定
242	H27年11月1日	茨城廃寺跡 調査成果② 掘立柱建物の発見
244	H27年12月1日	茨城廃寺跡 調査成果③ 掘立柱建物の規模
246	H28年1月1日	茨城廃寺跡 調査成果④ 建物方位からみえてきた変遷
248	H28年2月1日	ジャーメ - 石岡の盆綱行事
250	H28年3月1日	戦国時代の動乱を物語る泰寧寺 木造十一面観音坐像
252	H28年4月1日	新しく展示しました① 染谷古墳群の埴輪
254	H28年5月1日	新しく展示しました② 染谷古墳群の須恵器
256	H28年6月1日	近年の調査成果から 常陸国分寺創建期の住居
258	H28年7月1日	国分遺跡出土の長頸壺
260	H28年8月1日	近年の調査成果から 東田中遺跡の石塔埋納遺構
262	H28年9月1日	近年の調査成果から 山崎塩海道遺跡の堀跡
264	H28年10月1日	分かりやすい瓦塚の話①「34基もある瓦窯」
266	H28年11月1日	分かりやすい瓦塚の話②「瓦の文様の種類が多い」
268	H28年12月1日	分かりやすい瓦塚の話③「瓦塚の操業の開始」
270	H29年1月1日	分かりやすい瓦塚の話④「瓦の分布の広さ」
272	H29年2月1日	分かりやすい瓦塚の話⑤「遺跡の残りがよい」
274	H29年3月1日	分かりやすい瓦塚の話⑥「天井が残る窯跡」
276	H29年4月1日	平成28年度寄贈資料紹介「金子壽子文書」
278	H29年5月1日	平成28年度寄贈資料紹介「県道石岡停車場線開通記念杯」
280	H29年6月1日	平成28年度寄贈資料紹介「太平海陶器樽」
282	H29年7月1日	平成28年度寄贈資料紹介「村田宗衛門家関係文書」

広報No.	発行年月日	タイトル
284	H29年8月1日	「八郷盆地と太田焼き もう一つの瓦文化」
286	H29年9月1日	「唐草文軒平瓦」
288	H29年10月1日	「円形・板状土製品」
290	H29年11月1日	「佐久上ノ内遺跡の墨書土器」
292	H29年12月1日	「佐久良東雄」石岡が生んだ勤皇の志士
294	H30年1月1日	「佐久良東雄」
296	H30年2月1日	護身地藏にまつわる話
298	H30年3月1日	「十三塚のいわれ」
300	H30年4月1日	「長楽寺の天狗」
302	H30年5月1日	「庭訓往来」江戸時代の教科書
304	H30年6月1日	近代化の象徴「英学必携」「小学理科書」
306	H30年7月1日	学校から見つかった土器「八郷南中出土蔵骨器」
308	H30年8月1日	古墳時代と古代国家をつなぐ新たな指定文化財 - 国府に一番近い古墳 -
310	H30年9月1日	三村地区から出土した人物埴輪
312	H30年10月1日	石岡航空基地の飛行機
314	H30年11月1日	特別史跡常陸国分寺跡 近年の発掘調査の成果
316	H30年12月1日	常陸国分寺跡出土「中世瓦」
318	H31年1月1日	常陸国分寺跡 金堂について
320	H31年2月1日	石岡地方の方言
322	H31年3月1日	石岡農学校
324	H31年4月1日	石岡一高 社会部
326	R1年5月1日	【拡大版】「明治の私塾、長峰塾」令和元年の幕開けに知っておきたい明治時代の「石岡の教育」
328	R1年6月1日	教育者・鈴木銀四郎の背景
330	R1年7月1日	幻の学校「米学校」
332	R1年8月1日	昭和49年茨城国体～旗・炬火リレー～
334	R1年9月1日	昭和49年茨城国体～バドミントン競技開催に向けて～
336	R1年10月1日	昭和49年茨城国体～国体県民運動の取り組み～
338	R1年11月1日	舟塚山古墳の被葬者①
340	R1年12月1日	舟塚山古墳の被葬者②
342	R2年1月1日	舟塚山古墳の被葬者③
344	R2年2月1日	「時の記憶」のあゆみ

※実際のタイトルに番号等を加筆したのものもあります。

※広報No.は、平成17年10月1日に石岡市と八郷町が合併した後の新たな『広報いしおか』のシリーズ番号です。

3. 「時の記憶」のあゆみ

ここでは、連載記事「時の記憶」のこれまでのあゆみを振り返ります。

会期中の前半では、平成17年11月1日号（広報No.3）に掲載されたシリーズ1から平成21年12月1日号（広報No.100）のシリーズ50までをご紹介します。

また後半では、平成22年1月1日号（広報No.102）のシリーズ51から平成26年2月1日号（広報No.200）のシリーズ100までをご紹介します。

○会期前半：令和2年2月7日（金）～3月15日（日）

○会期後半：令和2年3月17日（火）～5月6日（水）

※連載記事の内容は、それぞれ掲載当時のものであり、現在の状況とは異なる場合もあります。

※この展示解説書では、実際に『広報いしおか』に掲載された記事の一部をご紹介します。

時の記憶

丘の王墓

丸山古墳

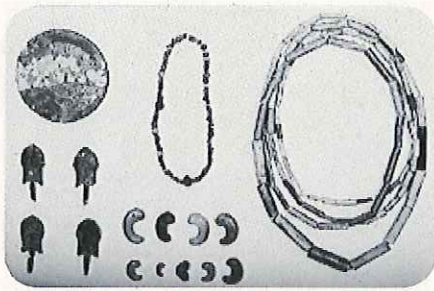
筑波山系の美しい山並み、そして赤瀬川の清らかなせせらぎ。そんな風景を見渡すことができる丘の上に、その古墳は造られました。市内柿岡地区に今も残る丸山古墳は、古代史を研究するうえで、全国的にも著名な古墳です。

古墳時代の前期、およそ1700年前に築造されたこの古墳は、前方後円墳という種類のもので、私たちに馴染みの深い古墳としては、前方後円墳が挙げられますが、県内のこの時期の古墳では、前方後円墳が主流であったようです。

丸山古墳がその名を世に知らしめたのは、今から50年以上も前のこと。当時、町を挙げての発掘調査が行われました。全長55メートルの規模をもつ、この古墳の後方部から、極めて貴重な副葬品が発見されたのです。副葬品は、この墓に葬られた主が眠る棺跡から見つかりました。品目

は多種多様で、青銅製の鏡・鍔のほか、鉄刀や鉄剣、ヒスイやガラス製の玉類などがありました。これらの品々は、当時ごく限られた人物にしか与えられなものでした。つまり、丸山古墳の被葬者は、この地域一帯を治めていた有力者であったと想像されるのです。

丸山古墳が築造されたその丘も、有力者にふさわしい最期のロケーションとして与えられた場所なのかもしれません。



丸山古墳出土副葬品（『八郷町史』より）

広報いしおか No.3 H17年11月1日号

時の記憶

シリーズ ②

湖の王墓

舟塚山古墳

恋瀬川の河口近くに堂々と横たわる舟塚山古墳は、およそ1600年の時を超えて、私たちにその秀麗な姿を伝えていきます。舟塚山古墳は、前号で紹介した柿岡地区に残る丸山古墳から数十年後に築造された前方後円墳です。その立地は極めて贅沢で、霞ヶ浦の湖面や筑波山を始めとして、周辺一帯360度のパノラマを手中に収めています。

現在、全国に残る古墳の数は、10万基とも20万基とも言われ、その中で、前方後円墳は、およそ5000基存在するとされています。舟塚山古墳の全長は、186メートルを誇り、県内では最大規模、全国では第46位に位置しています。これを上回る古墳を概観すると、そのほとんどが近畿地方に残る古墳です。当時、政治の中心がこの地方にあったことを考えれば、当然とも言えるでしょう。

さて、奈良時代に湖が所在することから命名された国々に、近江国と遠江国があります。これらは、現在の滋賀県（琵琶湖）と静岡県（浜名湖）にあたり、都からの距離でその名が与えられました。では常陸国はというと、霞ヶ浦にちなんだ国名にはならなかったのです。しかし、琵琶湖や浜名湖周辺の古墳には、舟塚山古墳の規模を上回るものもなく、古墳時代においては、霞ヶ浦がこの地域の王権形成に大きな役割を果たしたことがうかがえます。水を制する大豪族の存在が、やがて常陸国の中核を生み出すことになったのでしょう。



舟塚山古墳全景

広報いしおか No.5 H17年12月1日号

時の記憶

シリーズ ③

石岡の仏教事始め 茨城廃寺

前回、前々回と紹介した丸山古墳や舟塚山古墳のように有力者が大きい塚を作って自らの権力を誇示したのは、主に4世紀から6世紀にかけての時代でした。その後、畿内において仏教という新しい宗教が取り入れられると、多くの地方豪族は古墳にかわり、寺院を建設することで自らの権威を示すようになります。

貝地、田島地区にある茨城廃寺はまさに白鳳時代から奈良・平安時代にかけての古代寺院で、昭和54年から三年間にわたる発掘調査が行われました。

その結果、金堂、講堂、塔が確認され、それらの配置が奈良の法隆寺と同一であることが判明しています。また、それと同時に大量の瓦も出土しました。瓦は元来、中国で発明されたもので、単に雨をしのぐだけのものではありません。地中に柱を埋めて家屋を建設すると柱が土と接するところが腐ってしま

うため、地面に石礎石を置き、その上に柱を建てるようになりました。そして、不安定な家屋を安定させるおもしろい役目も果たしていたのです。市内で瓦が出土すると、「そんなもん石岡ならどこでもあつ」と言われることがあります。しかし、当時は、一般の人はまだ竪穴住居に住んでいた時代です。最新技術で作られた瓦葺きの寺院を人々はどんな気持ちで眺めていたのでしょうか。

茨城廃寺出土の遺物は、石岡市民俗資料館と常陸風土記の丘に展示されています。



広報いしおか No. 7 H18年1月1日号

時の記憶

文化振興課

シリーズ ④

中世のタイムカプセル 「経筒と石櫃」

経筒とは、経典を地下に埋納することにあたってそれを収納する筒のことです。主に銅製ですが鉄製や石製のものもあります。経筒を埋納するときは高く土を盛りあげることから「経塚」と呼ばれます。

経典の埋納が行われるのは平安時代からで、これは釈迦の入滅後徐々に仏法が衰えて行き、仏法の及ばない末法の時代に社会に混乱が起こるといいう末法思想によるものです。要するに、仏教の教えが届かない末法の時代でも、ありがたい経文を地下に埋めることで経文を保存し、混乱の世を乗り切ろうとしたわけでした。当時は、平将門や藤原純友の乱が起きている時期であり、末法思想も現実味を帯びていたようです。それが、時代が下ると「極楽往生・現世利益」を祈願するものへと変わっていき、全国各地で作られるようになっていきます。

さて、今回紹介する石岡市出土の経筒は、昭和38年にギター文化館前の畑地で花崗岩製の石櫃に納められた形で発掘されたもので、現在は県の重要文化財に指定されています。経筒の総高は、約12センチで側面には「大永三年甲州高家住道善・小聖善貞」と刻銘が残されています。これによって大永三年(1523)に現在の山梨県笛吹市八代町高家に住んでいた僧の道善らによって埋納されたということがわかりました。

現在、この経筒と石櫃は、石岡市中央公民館で展示中です。



広報いしおか No. 9 H18年2月1日号

時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑤



▲現在の弁円總持跡

親鸞聖人伝説

「山伏弁円」

板敷山／石岡市大増

専修念仏禁止の弾圧によって越後に流罪となっていた親鸞聖人は、罪を許された後、東国布教のため常陸国にやってきました。稲田（笠間市）の草庵を中心に20年もの間布教活動を行ったことから、石岡市内にも親鸞聖人にまつわる伝説がいくつか残されています。その中でも山伏弁円の伝説は、数々の小説や伝記にも取り上げられて

ていることから、最も有名な伝説といえるでしょう。

山伏の弁円は、親鸞聖人の布教する浄土真宗によって修験道が衰退することを恐れ、当時石岡方面との唯一の交通路であった板敷道で、聖人の殺害を決意し、弟子とともに板敷山にこもります。しかし、一向に聖人が現れないため、業を煮やして稲田の草庵を襲いますが、弁円たちを笑顔で迎え入れた聖人に真宗の奥義を説かれ、その場で山伏の身を捨てて、聖人の弟子となります。その後、聖人の手となり足となり給仕に

勤めて、明法房の名前を賜り、二十四輩の一人に数えられるほどの高弟となりました。後年、聖人のお供で板敷山を通るとき、「山も山道も昔に変わらねどかわりはてたる我がころかな」と詠み、過去を懺悔したといわれています。

現在、弁円懺悔の地と伝えられる場所には歌碑が建てられ、険しい山道に往時を偲ぶことができます。また、板敷山の山頂には、弁円が聖人を亡き者にしようとして三日三晩祈祷したという護摩壇跡が残され、山伏弁円の伝説を今に伝えています。

広報いしおか No.11 H18年3月1日号

時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑥

古代の茨城県都 常陸国衙跡の発見

が行われたのです。

常陸国衙跡が創設されたのは、今からおよそ1300年前のこと。今の茨城県のほとんどが常陸国と呼ばれていた時代でした。当時の行政区割りは、国・郡・里とされ、現在の都道府県がほぼ国に相当します。「国衙」という言葉、それは私たちが一生のうちにはほとんど見ることも書くこともない文字でしょう。

その後、平成の時代を迎え、昭和の発掘調査を追証する成果が数多く発見されつつあります。平成の発掘調査は、今もなお継続して行われ、当時の常陸国の偉大さと歴史の奥深さを物語る、貴重な考古学的資料が発見されています。

「衙」には、行政府や役所といった意味があることから、すなわち国の役所、今言う県庁に相当する役所として理解されています。

平安時代に成立した文献『和名類聚抄』には、常陸国の役所が茨城郡（現在の石岡市周辺）にあったという記載が残されていることから、その場所を特定する研究が江戸時代後期から始まっています。昭和に入ると、その根拠を求めて、いよいよ発掘調査が開始されます。今から36年前に、初めて土の中からその証拠を探するという作業



▲昭和45年の発掘調査風景

広報いしおか No.12 H18年4月1日号

時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑧



親鸞聖人伝説Ⅱ 「爪書き阿弥陀」

石岡市高浜

以前この欄で、奈瀬川の源流に近い板敷山（石岡市大増）に伝わる「山伏弁円」の伝説を紹介しましたが、今回は、その河口の高浜（石岡市高浜）に伝わる「爪書き阿弥陀」の伝説を紹介したいと思います。

親鸞聖人が稲田（笠間市）の草庵から鹿島神宮へ参拝に向かう途中、高浜に腫れ物で苦しんでいる男がいるという噂を耳にしました。聖人は憐れに思いその男の家を訪ねますが、寝床から粗末な身なりの聖人の姿を見た男は、悪態をついて全く取り合おうとしませんでした。しかし、聖人が寝ている男の側に寄り、念仏を唱えながら身体をさすると、不思議に痛みが取れたばかりか、大きく腫れ上がったいた腫れ物もへこんでしまいました。男は驚いて寝床から飛び起き、心からお詫びをし、やがて鹿島に向かうため舟に乗る聖人に、心の苦悩も取り除いて欲しいとすがってお願いをしまし

た。すると聖人は「常に念仏を唱えなさい。そして、庭にある石には阿弥陀如来が宿っているからそれを信心しなさい」と男を諭し、鹿島へ旅立たれました。早速男は家に帰り庭石を見ると、石に阿弥陀如来の姿が浮き彫りのように現れていました。男は聖人の言葉を信じ、そこにお堂を建て、朝に晩に念仏を唱え、ついには常願房と名乗り聖人の弟子になったといわれています。

この伝説が伝わる阿弥陀堂は高浜の街並みの中ほどにあり、堂内には聖人が爪で書いたといわれる阿弥陀如来の石碑が今も大切に祀られています。伝説に因んで腫れ物が治ると近隣の人々に信仰される阿弥陀様を訪ねて、今では遠く北陸や関西方面からも参拝者が訪れます。



▲今も残る阿弥陀如来の石碑

時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑦



▲現在の瓦塚瓦窯跡

古代の生産遺跡

「瓦塚瓦窯跡」

石岡市部原

瓦塚瓦窯跡は石岡市部原（瓦会地区）にあり、現在、県の史跡に指定されています。

奈良時代の天平十三年（七四一）常陸国府（現在の石岡市国府付近）に国分寺・国分尼寺等を建立した際に、その屋根に葺く瓦類を製造した窯跡です。重量のある瓦を製造したには国府から距離が離れてい

ますが、これは質のよい粘土が採取できる場所や燃料となる炭を手に入れやすい場所を選定したからでしょう。ここで生産された瓦は部原から龍の口・鹿の子を経て若松町へと続く「カワライ街道」を通じて国府に運ばれたと言われています。

昭和四十三年、隣接している山林を開墾中に七基の窯跡が発見されました。そこで、緊急の発掘調査を行った結果、窯の構造は粘土質の地山をくり抜いて作られた「地下式有段登窯」と判明しました。燃焼部と焼成

部の区別が極めて明瞭で、焼成部内は五段の階段状に造成されています。また、軒丸瓦・軒平瓦などの多くの古代の瓦類が確認されました。

また、これまで二十余基の窯跡が確認されています。そのうち、発掘調査が行われた3号窯と4号窯に覆い屋が設置され、見学可能になっています。

現在、調査を契機に組織された「瓦塚保存会」の活躍により当遺跡の保存・活用が図られています。



時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑩



▲日本地図が刻まれた石碑

市内最古の日本地図

「大乗妙典」

日本廻国供養碑

石岡市染谷

日本国土の行政区画が、現在のようになる前の姿を表した日本地図が、市内染谷地区に残されています。この日本地図は、「大乗妙典日本廻国供養碑」と呼ばれる江戸時代の石碑に刻まれたものです。およそ一メートル

ル四方の雲母片岩という板石には、元禄七年（一六九四）に地元有志が全国六十八箇所の神社仏閣を廻り、法華経を奉納したことを記念して建立したものである、という記録も力強い文字で添えられています。

さて、地理学者の伊能忠敬が日本国土の測量事業を開始し、正確な日本地図を作成し始めたのが、今からおおよそ二百年前のこと。それより百年も前の時代に日本列島をくまなく歩き、日本国土を地図として後世に残したこの業績は、大変偉大なもの

です。この地図を細かく見ると、当時の一つひとつの国名が記されていることにも驚きです。国内現存最古の日本地図は、一三〇五年に作成された京都・仁和寺に伝わるもので、奈良時代の高僧・行基が作成したとされています。米俵のような形を連結させて日本国土を表現した意匠は、これ以後、日本地図の様式として指向され、俗に「行基式日本図」と呼ばれています。供養碑の日本地図は、現代の形に近づいています。式日本図」の秀麗な色濃く残

しています。おそろしくこの図がモデルだったと想像されますが、当時それほど庶民の間に伝わっていたとは思えません。この石碑の建立者は、相当な知識層か資財豊かな人物であったと想像されます。

平成の自治体合併も終息を迎え、新しい未来が訪れようとしています。三百年前の人々は、この日本廻国供養碑にどんな未来を描いたのでしょうか。

時の記憶

文化振興課

シリーズ ⑨



石岡戦国絵巻

「太田資正と片野城」

石岡市根小屋

石岡市の戦国時代を語る上でかかせない人物の一人が太田資正です。彼は江戸城を築いたことと有名な太田道灌の末裔に当たり、本来は武蔵国に本拠を置く武將でした。武蔵国にいることは上杉謙信の関東攻略の有力武將として活躍しています。しかしながら、安房国の里見氏と手を結び、北条氏と下総国府台

（千葉県市川市）にて戦いますが、これに敗れ窮地に陥つてしまいます。最終的に資正は常陸国北部に拠点を置く佐竹氏の客将として片野城（石岡市根小屋）を与えられています。この地は筑波山を越えればすぐ小田氏の拠点である小田城（つくば市小田）が存在し、当時は戦國最前線でした。佐竹氏がいかに太田資正に期待を寄せていたかが分かります。事実、太田資正は手這坂の戦いで小田氏を破るとその勢いで小田城から追い出しています。

このように佐竹氏の常陸統一に大きく貢献した資正は天正十九年（一五九二）に七十歳でこの世を去ります。現在でも片野城内には太田資正の墓があります。さて、片野城に目を向けてみると、この城が関東地方でも有数の巨大な城であることがわかります。本丸には2mを越えるであろう巨大な「土塁」が囲み、そこから下を見下ろすと「切岸」と呼ばれる急斜面が目に入ります。これは敵の侵入を防ぐためにあえて急斜面にしたもの

です。また、幾重にもわたり深い「空堀」に囲まれています。さらには城の西側には「虎口」と呼ばれる城の出入り口が残っています。これは攻め手に城内の様子に分かりにくいようにするため、または侵入しにくいように道をジグザクに折れ曲げて作るものです。

戦国時代という武將の生残りがかけたシビアな状況がつぶさに見て取れる片野城。一度訪れてみてはいかがでしょうか？

4. 『広報いしおか』の 小さな記事

連載されている「時の記憶」は、とても小さな記事ですが、その一つひとつに郷土の歴史・文化の時の記憶が刻まれています。限られた紙数の中で、効果的に情報を提供することは簡単なことではありませんが、この小さな記事を継続的に掲載していくことが大切であろうと考えます。今後もシリーズ 200 を目指し、たくさんの歴史・文化に関する情報を読者の皆様にお届けしていきたいと思えます。

なお、今回の展示資料は、冊子『いしおか 時の記憶』をもとに製作しました。シリーズ 1～100 の掲載記事は、この冊子でご覧いただくことができます。郷土を見つめ直すうえで、手軽な読み物となっておりますので、併せてご利用いただければ幸いです。

石岡市立ふるさと歴史館 第21回企画展

『広報いしおか』の小さな記事

—時の記憶—

令和2年2月7日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195

茨城県石岡市柿岡 5680 番地 1

TEL 0299-43-1111 (代)

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016

茨城県石岡市総社一丁目 2 番 10 号

TEL 0299-23-2398